

調査の概要

1. 調査の方法と内容

各都道府県並びに政令都市教育委員会、各都道府県私立学校担当箇所、所管する高等学校の海外修学旅行並びに修学旅行以外の海外研修の実施状況等について調査を依頼し、以下のとおりまとめた。

なお、茨城県・福井県（公立）、東京都・福岡県（私立）の実施状況については本協会の独自調査による。愛知県の私立学校に関しては、愛知県私立中学高等学校協会の協力を得た。

- (1) 調査の期日 平成20年5月1日現在
- (2) 調査対象 各都道府県並びに政令都市教育委員会、各都道府県私立学校所管部署
- (3) 調査内容
イ．平成19年度海外修学旅行の実施校数、参加生徒数、実施時期、日数、旅行費用、訪問国
ロ．平成19年度海外研修の実施校数、研修内容、研修先国、参加生徒数、実施時期
ハ．平成19年度国内航空機利用修学旅行の実施状況
ニ．平成19年度国内修学旅行方面別実施状況
ホ．平成20年度修学旅行の実施基準

2. 集計及び区分け等

- データは各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各道府県私立学校所管部署からのデータを集計し、一部本協会の調査データを加えた。
- 海外修学旅行・海外研修とも都道府県の実施校数・参加生徒数は出国数をベースとし、クラス別・班別及び課程別での実施を件数表示とした。また複数方面にまたがる場合、国別集計では延べ数でカウントした。
- 訪問国は、旅行という観点から大陸区分によったが、グアム・サイパンは北アメリカに、ニューカレドニア・パラオはオセアニアに、モルディブは東南アジアに区分した。ガラパゴスは国名（エクアドル）より一般的なため、その表示のままとした。
- 海外研修は3ヶ月未満の学校が主催する語学研修、ホームステイ、教科の特性を生かした実習・研修、姉妹校交流等をまとめ、研修内容の区分は本協会独自の仕訳によった。
- 国内方面別実施状況は、クラス別・班別及び課程別での実施や複数方面にまたがる場合も1校として集計のため、設置校数・生徒数と一致しない。
中学校は県によってデータ把握が困難なため参考数値として集計した。

3. 平成19年度全国高等学校の概要

- 学校数は5,313校（本校5,201校、分校112校）で、前年度より72校減少している。
 - ・公立の学校数は3,976校で、前年度より69校減少している。
 - ・私立の学校数は1,322校で、前年度より3校減少している。
- 生徒数は340万7千人で前年度より8万8千人減少している。
修学旅行対象学年（全日制2年，定時制3・4年，専科）の生徒数は、113万1千人で前年度より8万9千人減少している。
 - ・公立の生徒数は8万5千人の減少、私立は4千5百人の減少となっている。

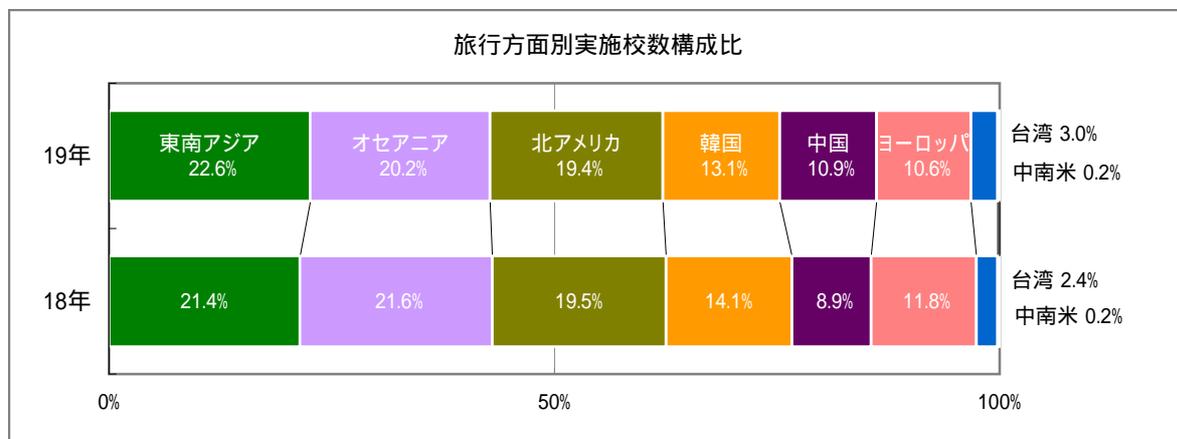
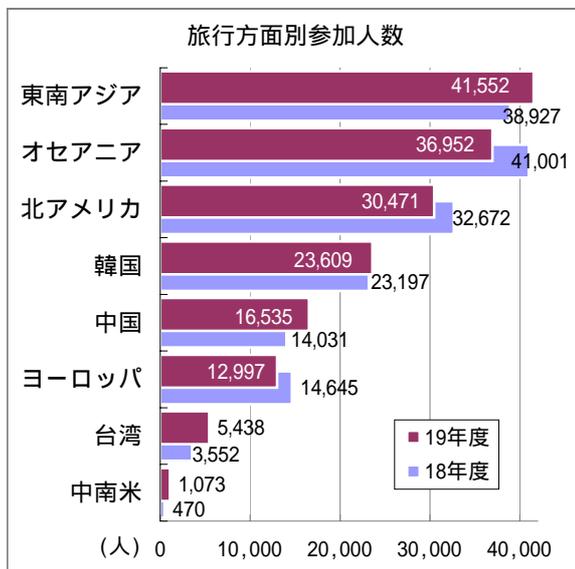
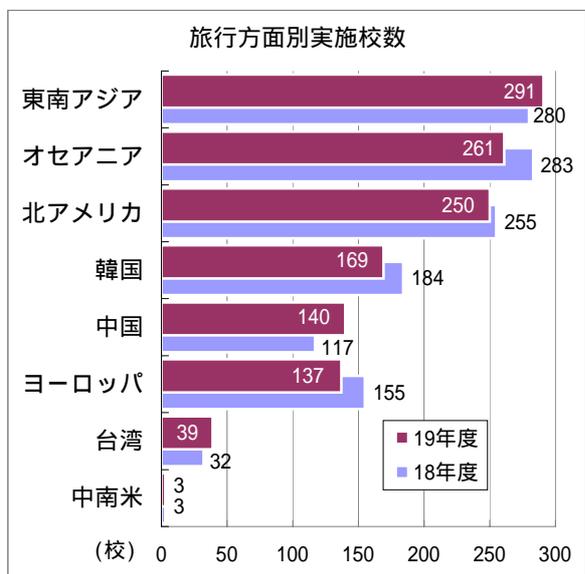
（資料：平成19年度文部科学省学校基本調査）

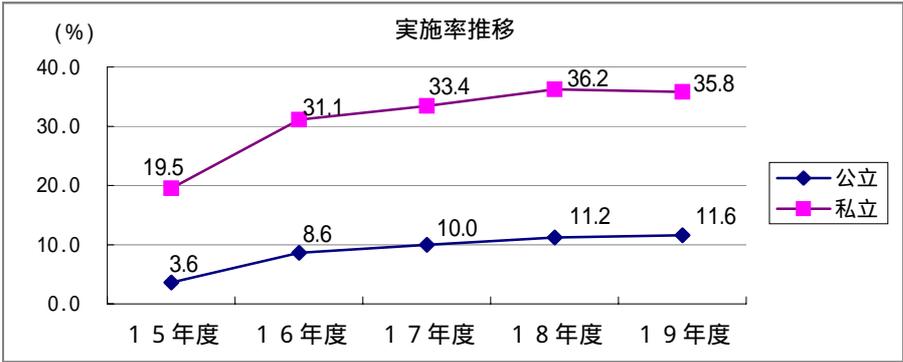
調査の結果概要

1. 平成19年度海外修学旅行の実施状況

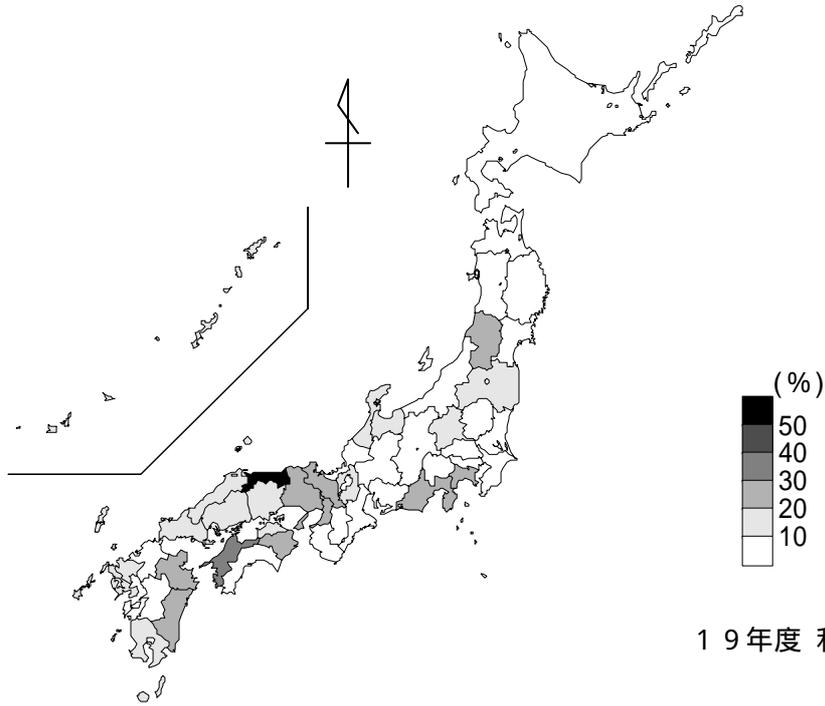
(1) 全国の動向

- 実施校数・参加生徒数は微増、旅行件数は前年度と同数であった。
 全国で936校（公立463校・私立473校）が実施し、151,181人（公立69,329人・私立81,852人）の生徒が参加した。公立高校では11.6%、私立高校では35.8%の実施率であった。旅行件数は1,156件（公立488件・私立668件）ある。
- 旅行先(延べ数)は、37ヶ国・地域に1,290校168,627人が訪問した。
 旅行先は、東南アジア・中国・台湾が増加、その他の方面は減少している。増加となった東南アジアは291校41,552人（公立176校27,235人、私立115校14,317人）、中国140校16,535人（公立68校7,919人、私立72校8,616人）、台湾39校5,438人（公立23校4,141人、私立16校1,297人）であった。減少となったものの、校数比で見るとオセアニア（20.2%）、北アメリカ（19.4%）の比率は依然として高い。

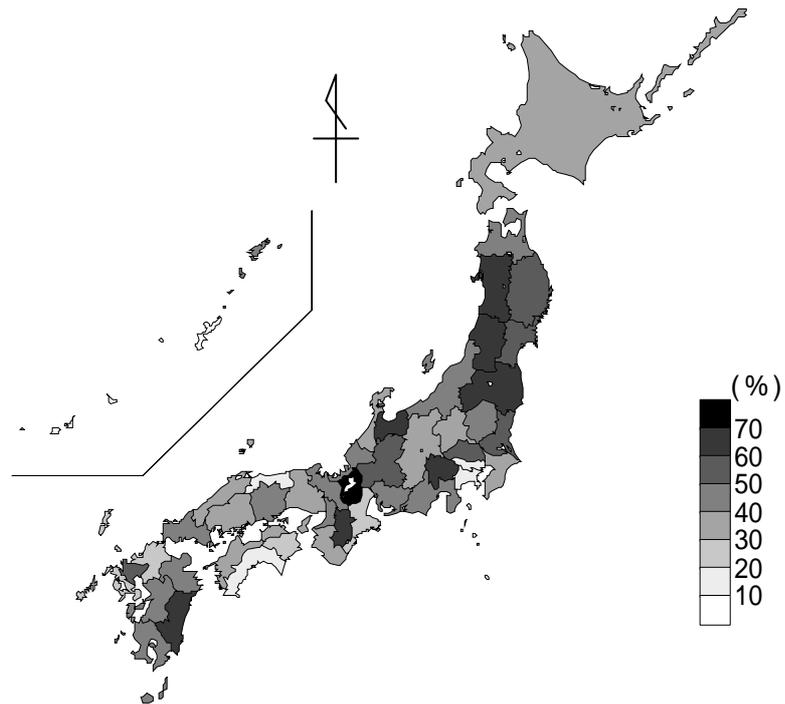


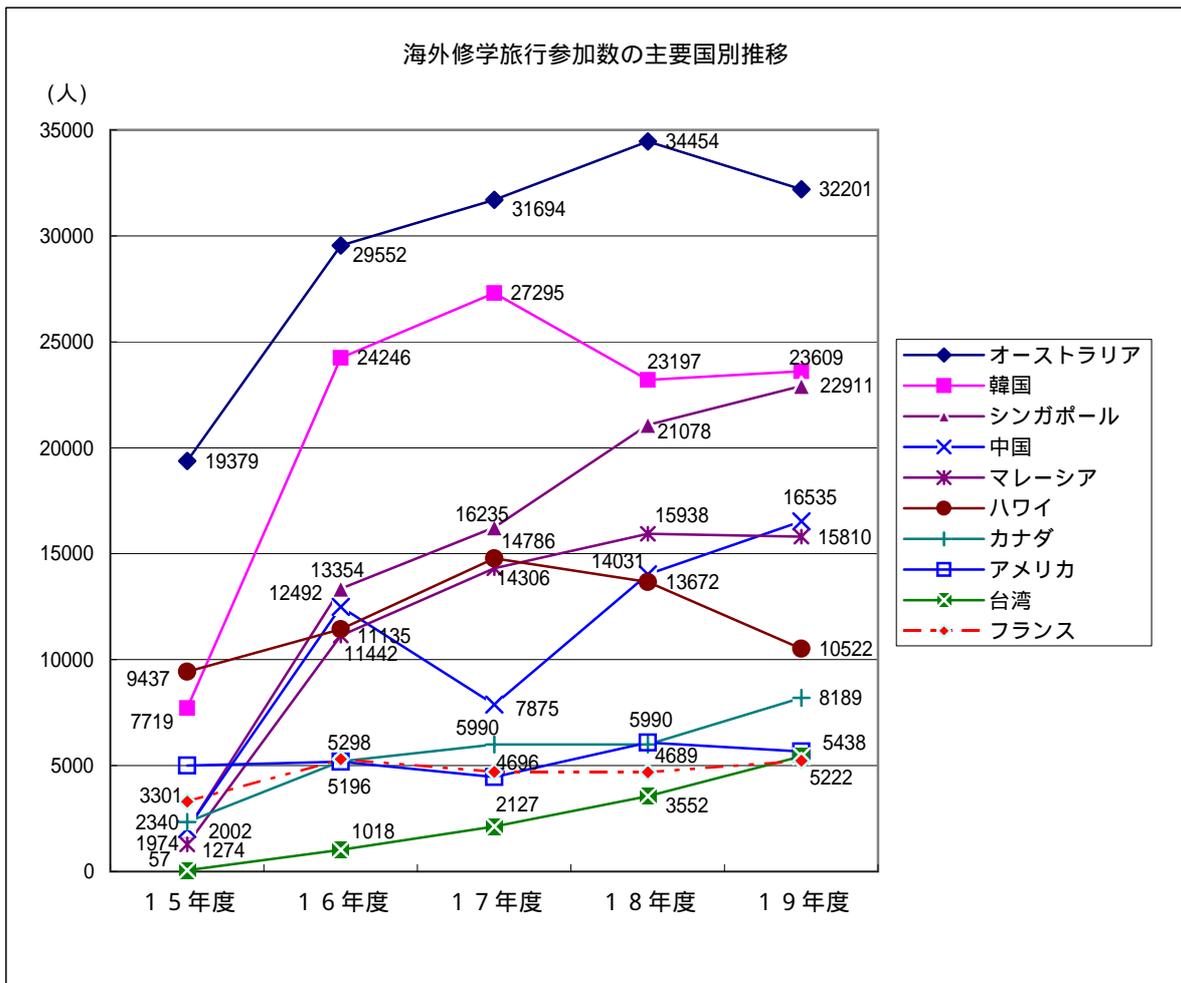


19年度 公立高校実施率



19年度 私立高校実施率

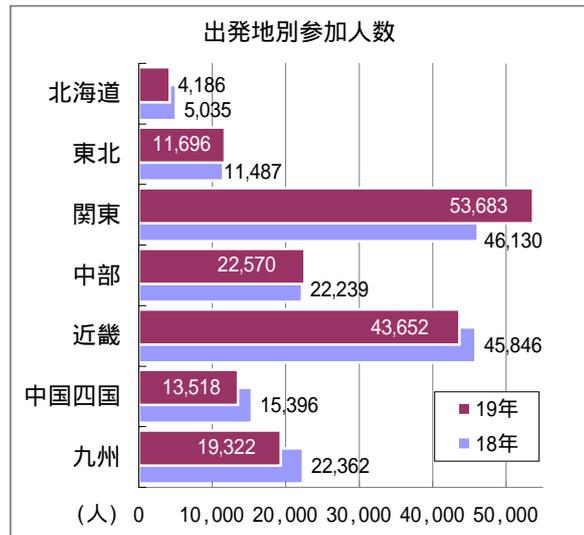
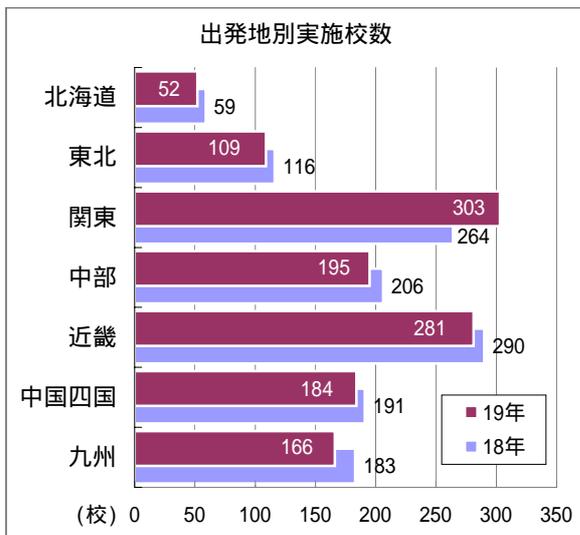




(2) 都道府県別の動向

○ 実施校は、関東地方は増加、その他の地方は減少している。

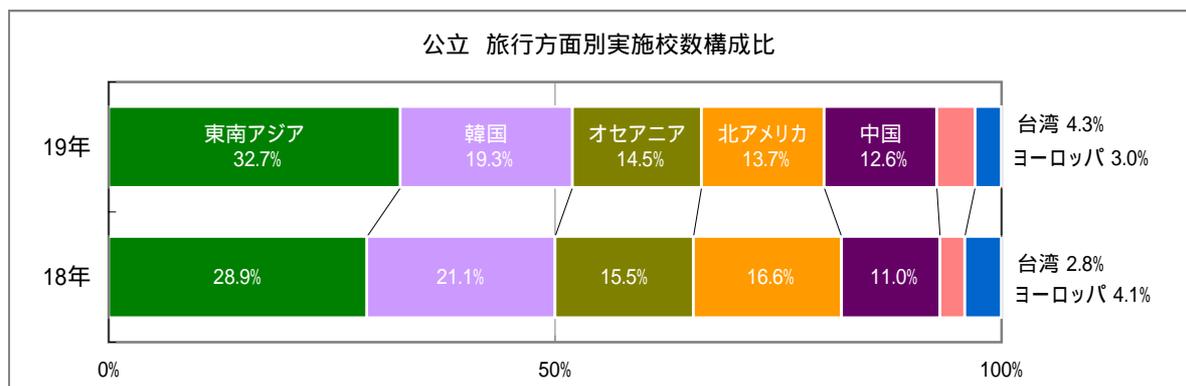
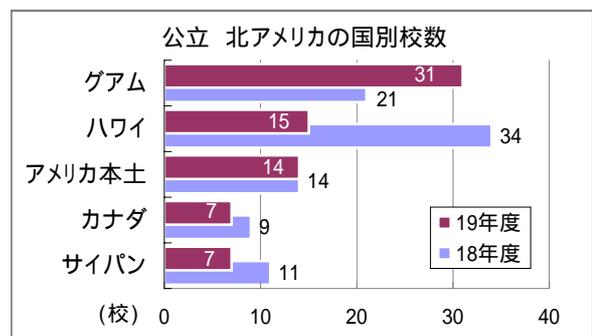
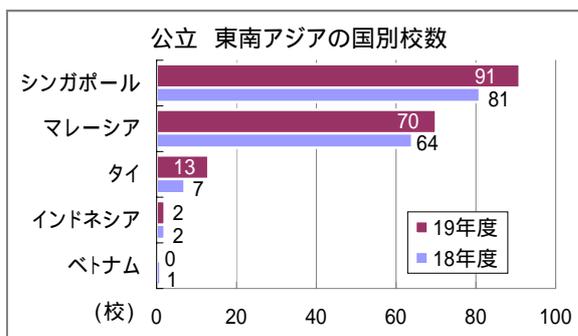
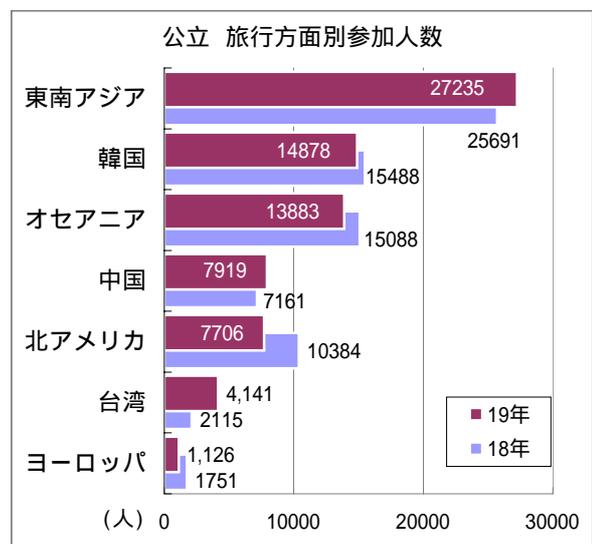
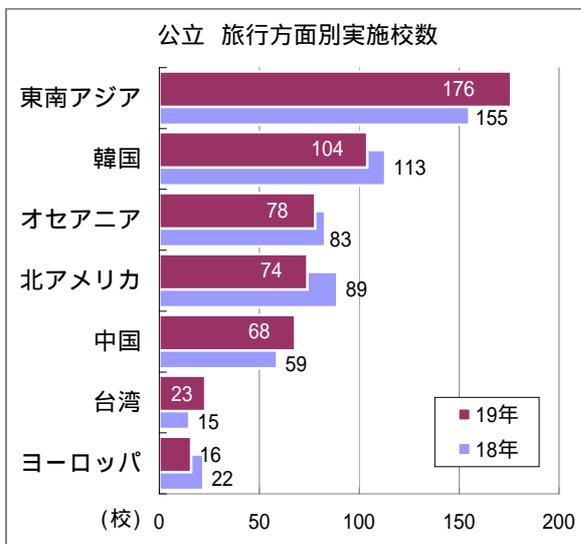
実施校は、19都府県で増加、23道府県が減少。公立では18都府県で増加、18道府県で減少。私立では16都府県で増加、19道府県で減少している。



(3) 公私立別の状況

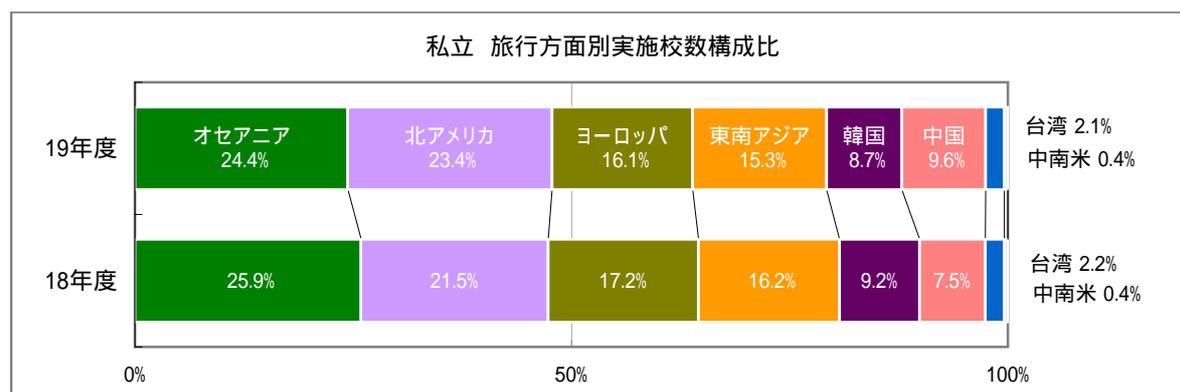
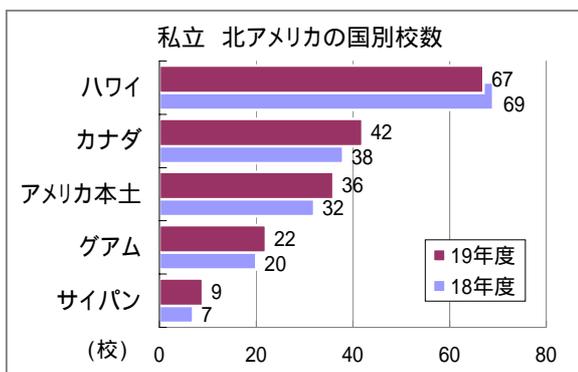
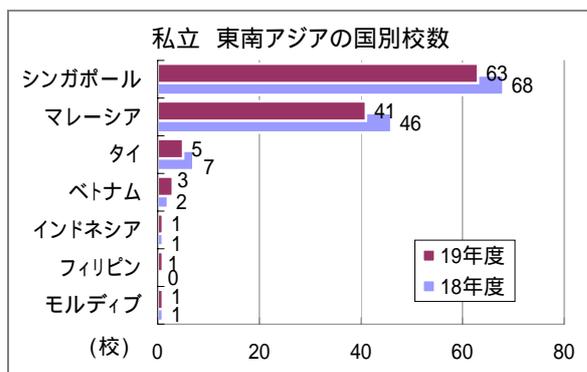
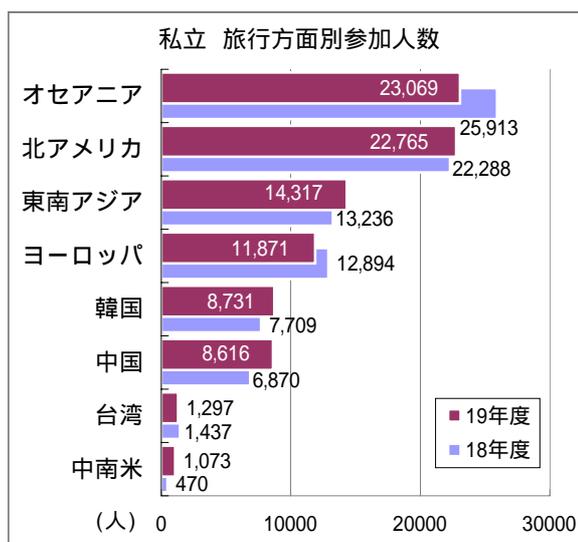
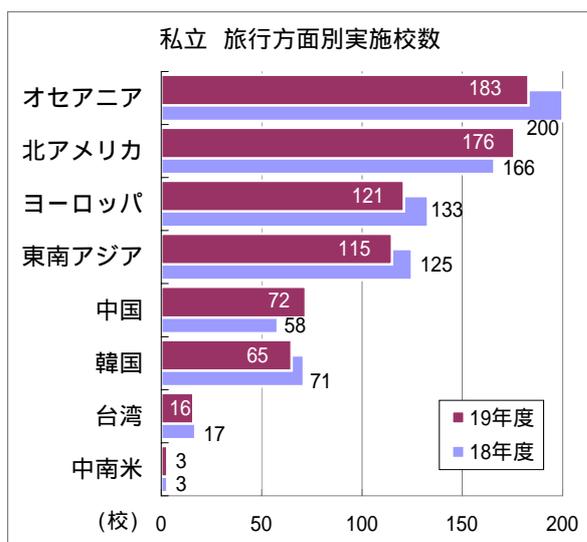
公立高等学校

- 463校が実施し69,329人が参加した。旅行実施件数は488件であった。
 <実施件数上位県> 兵庫県(48件)、神奈川県(39件)、大阪府(39件)、静岡県(29件)
 愛媛県(25件)、京都府(18件)、広島県(18件)、岡山県(12件)
- 全国の実施率は11.6%で、全国平均を上回る県は20府県あり西日本・九州地方が高い。
 <実施率上位県> 鳥取県(50.0%)、愛媛県(34.4%)、兵庫県(28.0%)、徳島県(25.0%)
 静岡県(23.8%)、京都府(23.4%)、神奈川県(23.2%)、大阪府(20.5%)
- 旅行先(延べ数)は、20ヶ国・地域に539校76,888人が訪問した。
 旅行先は東南アジア・中国・台湾が増加、その他方面は減少している。増加となった東南アジアは176校(対前年113.5%)27,235人、中国68校(同115.3%)7,919人、台湾23校(同153.3%)4,141人である。台湾の伸び率が高い。



私立高等学校

- 473校が実施し81,852人が参加した。旅行実施件数は668件であった。
 <実施件数上位県> 東京都(62件)、大阪府(52件)、北海道(35件)、愛知県(33件)、静岡県(32件)、埼玉県(31件)、京都府(24件)、兵庫県(24件)
- 全国の実施率は35.8%で、全国平均を上回る実施県は29道府県ある。
 <実施率上位県> 滋賀県(77.8%)、富山県(66.7%)、山梨県(63.6%)、福島県(63.2%)、秋田・山形・奈良・宮崎の各県(60.0%)
- 旅行先(延べ数)は、36ヶ国・地域に751校91,739人が訪問した。
 旅行先は、北アメリカ・中国・韓国が増加、その他の方面は減少している。
 増加となった北アメリカは176校(対前年106.0%)22,765人、中国65校(同112.1%)8,731人、韓国72校(同101.4%)8,616人であった。



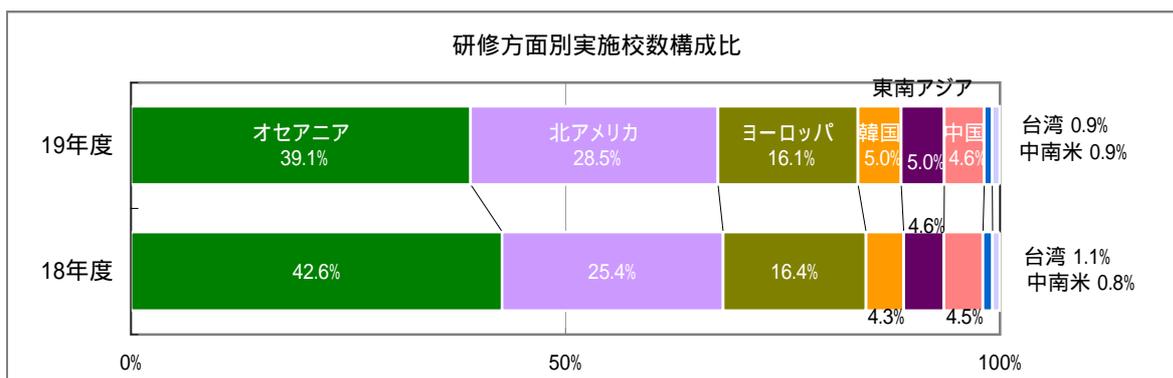
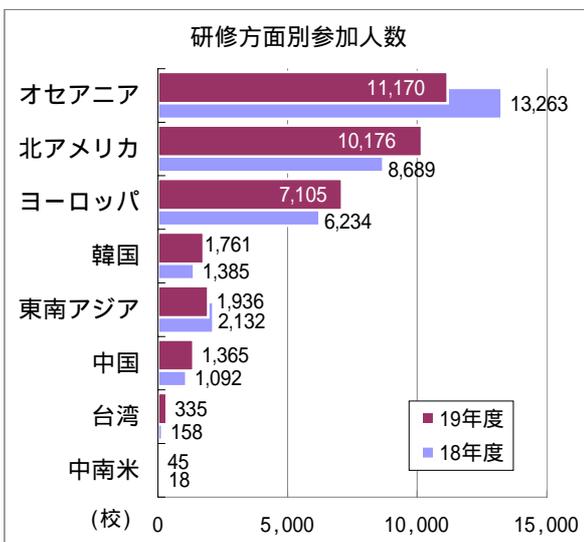
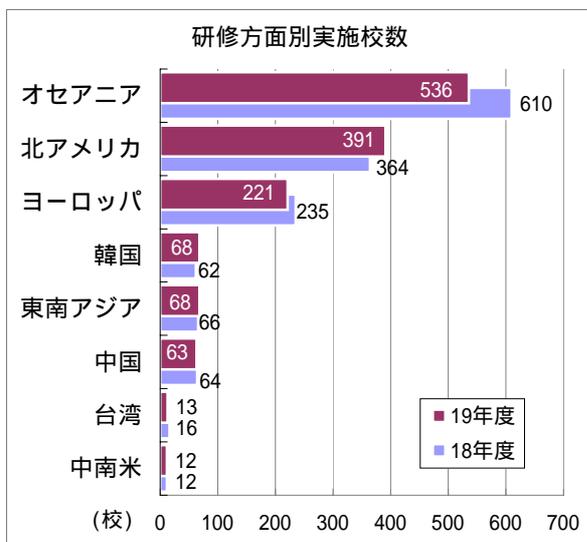
(4) 公私立中学校の状況(参考)

中学校での海外修学旅行は私立学校を主として公立学校でも一部府県での実施がみうけられ、参考資料として掲載した。

- 101校7,610人(公立17校1,202人、私立84校6,408人)の実施があった。
公立中学校は西日本・九州地方の学校が多く、特に福岡県が多い。
旅行方面は、公立は韓国(10校899人、校数比58.8%)が多く、日数3~4日間・5~7万円台で実施されている。オセアニア方面の旅行では自治体の費用負担がある。
私立はオセアニア(35校3,241人、同40.7%)が多い。旅行日数・費用は5~7日間、20~30万円台で実施されている。

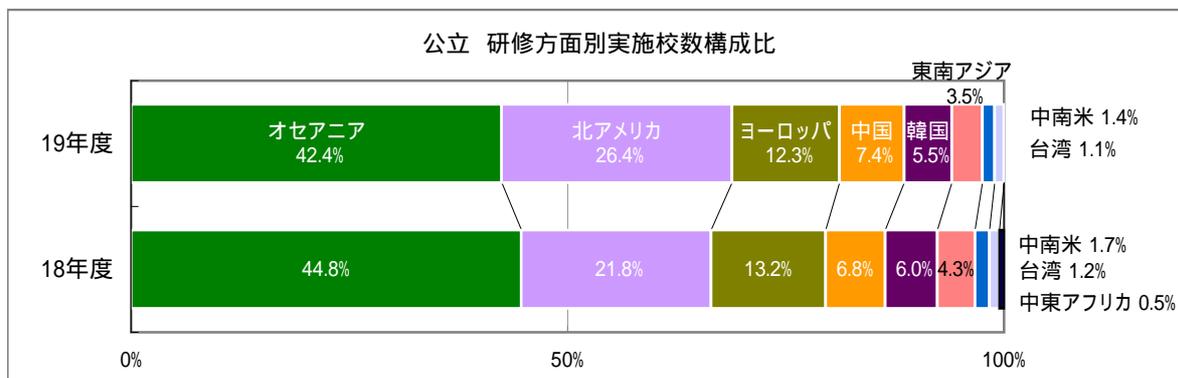
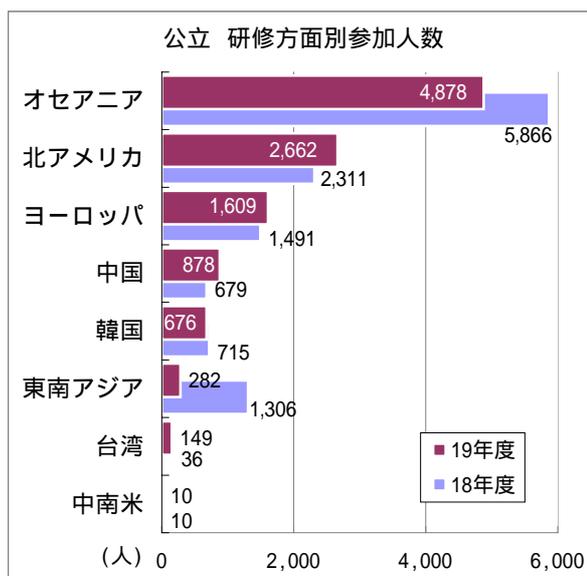
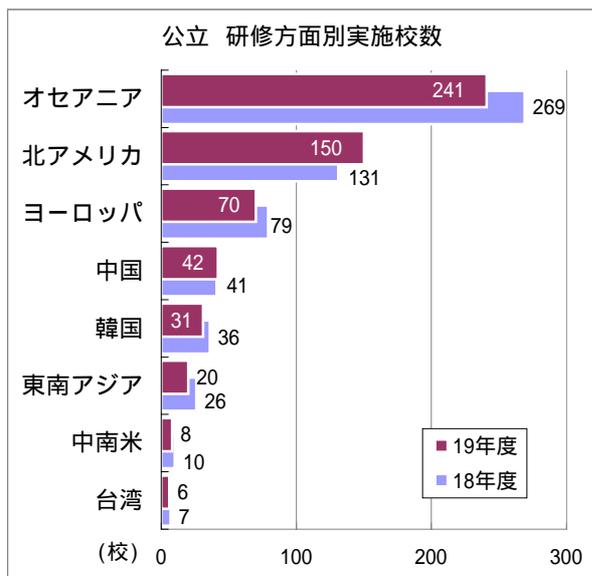
2. 平成19年度海外研修の実施状況

- 1,012校(公立503校、私立509校)が実施し、参加生徒数は32,053人(公立10,990人、私立21,063人)であった。実施件数は1,308件(公立537件、私立771件)にのぼる。
- 研修先(延べ数)は、37ヶ国・地域に1,372校33,893人(公立568校11,144人、私立804校22,749人)が参加した。
研修先は例年と変わらずオセアニア(校数比39.1%)、北アメリカ(同28.5%)が多いが、北アメリカは3.1ポイントの増加を示し、オセアニアは3.5ポイント減少している。
- 研修内容は、ホームステイ・語学研修が924校24,338人で実施総数の67.3%と最も多い。公立では全件数の51.4%、私立で78.6%となっている。



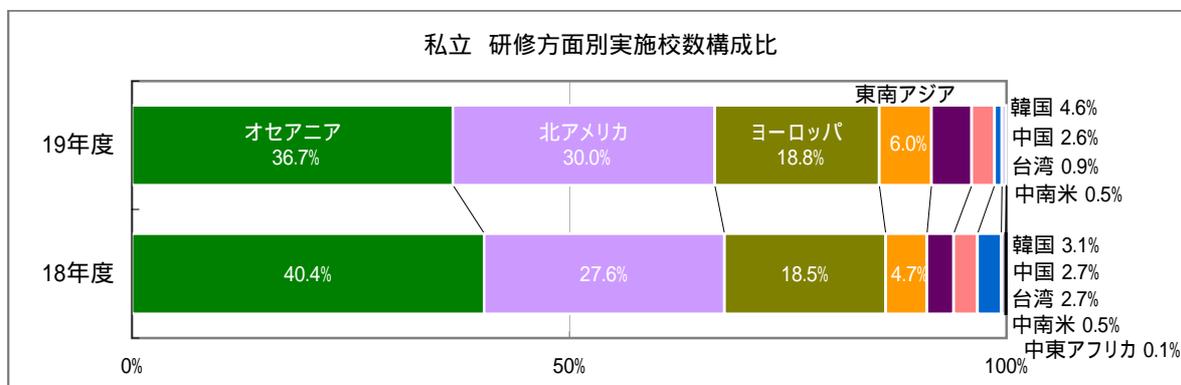
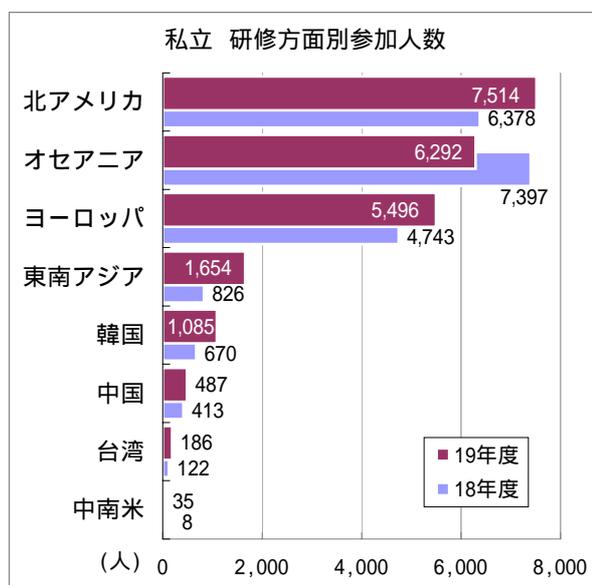
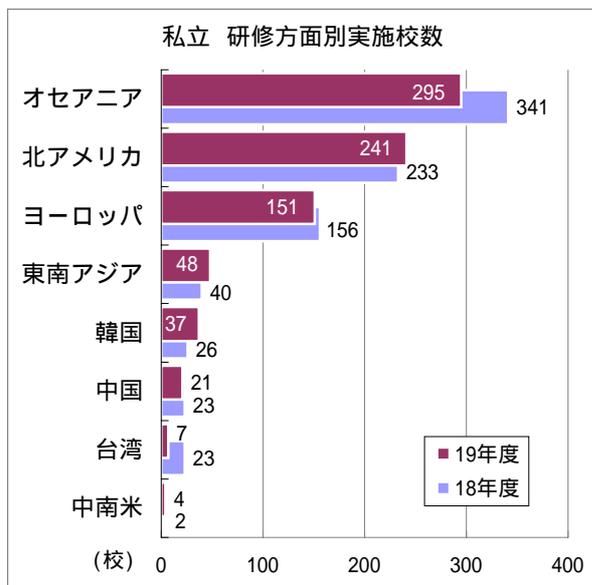
(1) 公立高等学校

- 503校が実施し、参加生徒数は10,990人であった。研修件数は537件ある。
公立高校では複数校が同一研修に参加している事例が多い。
- 研修先(延べ数)は、31ヶ国・地域に568校11,144人が参加した。
研修方面では北アメリカが校数で4.6ポイント増加、その他方面は減少している。
- 研修内容は、ホームステイ・語学研修が292校6,128人(校数比51.4%、人数比55.0%)と半数を占める。次いで学校間交流が100校1,526人(校数比17.6%、人数比13.7%)が多い。



(2) 私立高等学校

- 509校が実施し、参加生徒数は21,063人であった。研修件数は771件ある。
- 研修先(延べ数)は、31ヶ国・地域に804校22,749人が参加した。
研修方面では北アメリカ・東南アジア・韓国が増加、その多方面は減少している。
- 研修内容は、ホームステイ・語学研修が632校18,210人(校数比78.6%、人数比80.0%)と圧倒的に多い。



3. 平成20年度修学旅行実施基準の概要について

航空運賃の燃油サーチャージ高騰に対する、修学旅行の計画・実施上の指導内容について、大多数の府県市では「現行基準内での実施」としている。「旅行費用の見直し」をはかったのは1都、「生徒旅費負担に燃油サーチャージ」を含めないとしたのが1市、その他として「現行基準内での実施が原則であるが、基準を超えた場合でも十分な教育効果が見込める実施計画であれば審査の上、承認している」と回答した県が1県ある。